

14参照)と合わせて参考にさせていただきたい。

前川本流

1984年8月5～9日

し

8月5日 快晴。 福島(12:30)→林道終点・ゲート(17:00, 17:25)→箱ノ沢出合(18:55)→湯ノ島小屋(19:55)

お昼に福島を出発。17:00実川林道終点・ゲート前に着く。次の日の行動を考え、少し遅いが湯ノ島小屋に入ろうと歩きはじめる。沢を見ると、水量も多く、ゴルジュもすごい。先の遊行を気かけながら、林道を歩く。アプがすごく、虫よけスプレーもあまり効果がない。

実川ダムを過ぎて、登山道に入ると、とうとう暗くなった。ヘッドランプをつけてなおも先に進む。いいかげん歩くのがいやになった頃、ようやく湯ノ島小屋に着いた。

8月6日 快晴。 湯ノ島小屋(5:50)→アシ沢出合(6:10)→松ノ木穴沢出合(10:20)→下道流沢出合(14:15)

アシ沢を少し下降して、前川本流へ出る。そこで対岸へ渡渉したら胸まで濡れた。水の流れが強く、水量も多いので、渡渉には苦勞する。

右岸に渡り返して先に進むと、所々に釜をもったゴルジュとなる。右岸を捲くことにより岸に登ったら、右岸には釣の人数が使う跡跡があった。この先の小沢まで続いていたので、時間かせぎもあって、喜んで利用させてもらう。

再び本流に下るが、小滝と釜が現われて、右岸を捲く。この先は、右に左にと、渡渉をくり返しながらか進む。水量の多さに泣かされた。

左岸より2段8mの滝をかけて六兵エ沢が入ると、河原となって、やっと渡渉の連続から解放される。河原は、松ノ木穴沢出合を経て、入リトリノゴ沢出合まで続き、何なく遊行できた。

入リトリノゴ沢出合を過ぎてしばらく進むと、2mの小滝が出てきた。右岸の岩にシュリングが下がっているが、そこまでは泳がねばならない。水は冷たいし、柳谷さんが強い水流に逆らって泳ぐのに不安を感じるということなので、左岸を捲くことにした。ザイルを出し、途中でランニングを取りながら登って、アップザイルンで下る。下降点にもシュリングが残っていた。

この先は、ゴルジュ帯だが、深い釜もなく、少しは楽な遊行となる。右岸から2つの滝をかけて小沢が合流すると、まもなく下道流沢出合であった。今日の行程はここで終える。14時15分。

噴のおかずをねらって、イワナ釣を行うが、ポーズ。そうこうしていたら、水が濁ってきた。快晴続きのこの天気です。水が濁るとしたら、スノーブリッジの崩壊によるものだろう。水位は30cm程上がった。

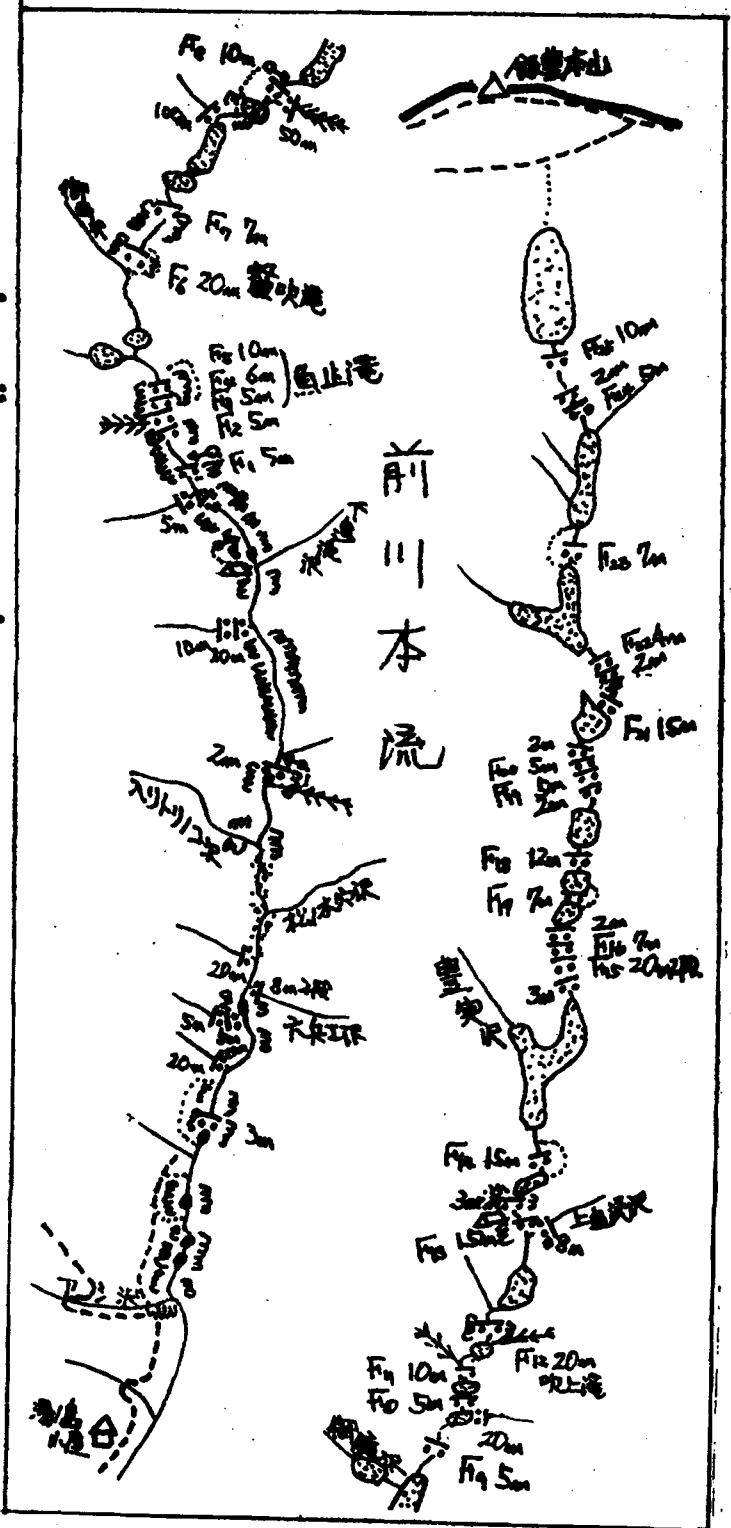
8月7日 快晴。 下道流沢出合(5:50)→御西沢出合(9:10, 9:50)→御鏡沢出合(13:00)→上道流沢出合(14:45)

下道流沢出合の釜は、右岸を捲き、アップザイレンにて下りる。すぐに波渉となった。あいかわらず水量は多く、水はつめたい。1分も入っていると、足の感覚がなくなる。

やがて2mのチョック滝。ハーケンを打って、シュリングをかけ、それを頼りに左岸のバンドに登って越える。その先すぐにF₁ 5m。左岸を捲き、アップザイレンにて降りる。

すぐに魚止滝の連瀑帯。F₁、F₂、F₃と滝の右を登り、F₃の魚止滝は、小さく左岸を捲く。

ゴルジュも小さくなってきて、右岸より小沢が入った先にスノーブリッジが現われた。ここは左岸を捲いてアップザイレンにて降り、御西沢出合へ。ここで日がさしてきたの



で、ゆっくり体を暖めて虹吹沢に挑むことにする。

虹吹沢は左岸を捲いてゴルジュに下る。この先、一部はザックを置いて、空身で傾壁を登るが、あとは波渉。水は冷たいが、腰までで通過できた。

この先のF₇7mは、右岸を捲いて越える。するとその先にまたスノーブリッジ。左岸を捲いて、アップザイレンで降りる。次のスノーブリッジは、左より上がって越す。

河原に降りてしばらく歩くと、スノーブリッジの先にF₉10m。これは右岸を捲いてアップザイレンにて降りる。ここで昼食。コーヒーを沸かす。

雪渓を歩いて御鏡沢出合へ。出合も雪渓で埋っていた。

雪渓がきれて、F₉5m、F₁₀10mと通過する。F₁₁5mの右岸を捲くと、F₁₂20mの滝となる。吹上滝と呼ばれる豪快な水量のひょうぐり滝だ。左岸のガリーを登って越える。

やがて上追流沢出合。本流と上追流沢の両方に滝がかかっている。上追流沢の滝を登り、トラバース気味にF₁₃15mの滝の上に出。時間もよいようなので、ここでビバークと決める。滝の上でながめもよく、最高のビバーク地であった。

8月8日 快晴。 上追流沢出合(6:10)→登山道(11:30)→飯堂本山(11:45, 12:15)→大日岳(14:35, 15:05)→月心清水(17:30)→湯ノ島小屋(18:55)

ビバーク地から右岸を小さく捲いて小滝を越える。それからその先のスノーブリッジとF₁₄15mを一緒に大きく捲く。一時間程の捲きとなった。

雪渓が出てきて、すぐに壱実沢出合。ここで履タビに履き替える。

左へ曲がった先は、連瀑帯となった。F₁₅20m二段は、右をシャワーで登り、上部は右を捲くようにして滝の上に出る。続くF₁₆と小滝2mは右側を通過。F₁₇は、右側を捲いたが、草付きが滑って少し苦勞した。

雪渓に続いて5mクラスの滝が続く連瀑帯を過ぎると、沢が右に曲がり、F₁₈15mの滝となる。左よりトラバース気味に滝の上に出る。

あとは飯堂本山下の登山道に出るまで、雪渓が連なり、所々に滝がかかるようになる。長かった前川本流の遊行も終わりである。11時30分、飯堂本山下のお花畑に出た。

本山でたっぷり昼食をとり、御西・大日岳を経て湯ノ島小屋に下る。

8月9日 快晴。 湯ノ島小屋(5:55)→ゲート(8:30)→福島(12:30)

5時55分、湯ノ島小屋出発。林道に出るまではどうということもなかったのだが、その先はアブの大群につきまといわれて弱った。林道のゲートの所で着替えて、一

路福島へ。久しぶりに充実したいい山行であった。

(記)

1984年9月14～16日

タカツコ沢

L

↓

9月14日 曇り一時雨。 福島(16:00)→御沢(21:40)

夕方に福島を発って、喜多方経由で川入～御沢へと入る。

9月15日 曇り後晴。稜線はガスがかかる。 御沢(6:30)→タカツコ沢出合(7:05)
→穴沢出合(8:00)→剣ヶ峰(15:40)→三國岳(16:15)

朝6時半に御沢を出発する。砂防ダムまで林道を歩き、砂防ダムを乗り越えて沢に入る。タカツコ沢出合へは御沢から30分程で到着。いよいよ進行開始である。

河原を遡んでゆくと、やがて釜のある小滝F₁4mが出てくる。なんなく越える。この先再び河原。沢が二分する部分もあるが、上部で合流する。

右岸からドンガ沢が入り、8時、穴沢との出合となって、本流は左に曲がる。核心部はここからで、さっそく5m、4mと滝が出てくる。

沢が再び二分し、すぐに再合流すると、間もなく大きな幅広いF₂8mが現われる。中ほどを直登し、左岸にトラバースして登る。その上は小滝が連続していた。左岸から小沢が入った先のF₃6mを越し、その上の3mのすべりやすいチョックストンの滝は、トップが登ってザイルを出す。

沢が右に直角に曲がると、小滝が連なる連瀑帯となって、一気に高度をかせぐ。そしてナメ状の斜面であるF₄8m。右岸のブッシュを利用して登る。

F₁4mを過ぎると、再び2m程の小滝が連続するようになる。3つめの小滝は、深い釜をもっていたので、へつりで通過する。

やがて右岸から3本の小沢が入り、四角にくりぬいた特徴ある岩が出てくる。ここで小休止をして、再出発。すぐにF₅F₆各4mとなり、この沢唯一の捲きを強いられる。2つの滝を一変に捲き、ブッシュを利用して下降する。

F₁₀4m、F₁₁8m、F₁₂5mのそれぞれ釜をもつ滝を乗り越え、沢は河原状となって、ややホッとした気分になる。やがて二俣。水量は2:3出、本流である右俣の方が多し。右俣には岩に赤ペンキで丸が書いてあった。

沢が一度二分して再合流した先にまた二俣。左沢が本流で、水量も倍くらいある。右沢は、本流と少し並行して流れているが、やがてカーブをきって瀬頭が上がってゆく。